

附属機関等会議録

平成30年 12月6日

会 議 の 名 称	平成30年度 第38回島田市諏訪原城跡整備委員会
開 催 日 時	平成30年 11月 27日 13時45分から 16時00分まで
開 催 場 所	島田市役所4階 第三委員会室南
会 議 の 議 題	《報告事項》 ● 文化庁調査官との打ち合わせについて 《協議事項》 ● 諏訪原城跡基本設計について 《現地視察》 ● ガイダンス建設工事箇所 ● 二の曲輪北馬出
会議の公開又は全部若しくは一部の非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 非公開（ 全部 ・ 一部 ）
会議の全部又は一部の非公開の理由	
公開の場合の傍聴人の数	0
出席者の氏名等	整備委員：小和田委員長、三浦副委員長、高瀬委員、加藤委員、前田委員、畑教育部長 アドバイザー：山田啓子主査（県教育委員会） 事務局：太田課長、坂巻課長補佐、萩原主任学芸員、渡邊技師、松本技師、藪囁託員
会 議 の 結 果	《報告事項》 文化庁調査官との打ち合わせについて（報告） 9月11日に文化庁において、二の曲輪北馬出の整備について協議を行い、下記の内容について指導があったことを報告した。 ①二の曲輪北馬出から中馬出に続く場所について、城が使用されていた当時の姿を整備委員会で検討すること。 ②板塀や築地塀の可能性について検討すること。

《協議事項》

・諏訪原城跡基本設計について

事務局から基本設計を進めるにあたり、二の曲輪北馬出の発掘調査の成果について、土塁の上部は削平されているため、柱穴は見られなかった。つまり、土塁上の構造物に関して、発掘調査結果から土塀・板塀・築地塀を示す証拠は見つからなかったことを報告。

1) 復元する塀は土塀・板塀・築地塀と候補があるが、どれが最も適しているか？

① 板塀の可能性については、当時、防備能力がなく、高級な板材を塀に使用することは絶対に在り得ない。

理由1: 中世の城に板塀があったということは例を見ない。対して、中世の土塀の発掘事例は全国でいくつもある。

理由2: 5尺間隔の丸太の掘立柱で、柱根(ちゅうこん)は約10cmと極めて細い。その柱に対して、板塀の場合、厚さ2cmが限界であり、銃弾で打ち抜かれてしまうため防備能力はないと言える。一方、土塀の場合、厚さは10cm以下と考えられる。10cm程の土壁であれば、防弾にも適した防備能力がある。

理由2: 当時、板材は超高級品であったため格式高い建築物に使用していた。

例1: 神社仏閣の壁

例2: 京都御所の紫宸殿(ししんでん)

例3: 磐田の鷹狩御殿の屋内仕切り

理由3: 発掘調査では掘立柱の穴だけが見つかり、上物は分かっていない。上物が分かる根拠は文書で、しばしば「塀が壊れたから縄と竹を持って来い」と記載があり、そこから板ではなく、土塀だと読み取れる。

理由4: 中世を描く多くの絵巻物・屏風に、土塀が描かれている。

・ 絵巻物『十二戦合戦絵詞(じゅうにせんかっせんえことば)』

・ 絵巻物『秋夜長物語(あきのよのながものがたり)』

- ・1300年代の絵巻『後三年合戦絵詞(ごさんねんかつせんえことば)』の金沢柵(かなざわさく)は、土塀に楯を並べ狭間(さま)を切っている様子が見られる。
- ・屏風『大阪夏の陣図屏風』
- ・屏風『賤ヶ岳(しずがたけ)合戦図屏風』
- ・屏風『関ヶ原合戦図屏風』

2) 築地塀の可能性について

① 築地塀の可能性はない。

理由1: 築地塀の場合、塀の下に平行して基礎石が並ぶが、中世城郭にそのような調査結果は出ていない。基礎石がない築地塀もあるが、それは古代城に限り、塀の幅が1mにもなる。大変稀な事例として三河の吉田城、山形城は発掘時に基礎石が出たが、それ以外は見ることが無い。

理由2: 築地塀の場合、版築(はんちく)する必要があるが、版築すると土塁が壊れる可能性がある。以上の観点から、整備委員会では、二の曲輪北馬出周辺の土塁上の構造物は土塀であったと結論づけた。

3) 資料2を提示し、中世の土塀について検討した。

① 柱間の露出、壁の厚さについて

実際、柱は見えない。また、柱の太さが10cm程だとして、土塀の壁部分は最大で10cm、またはそれより薄い。壁は篠竹や女竹のような親指程の太さの丸竹を割らずに使用し、縄を巻く。それだけで4~5cmになる。

② 当時、土塀に屋根があったのか。

当時、土塀に屋根はないのではないか。あったとしても、土塀上部に杉皮を貼り付けたと考える。しかし、復元するにあたり、屋根がない土塀は5年で溶けてしまう。メンテナンスを考えると屋根は付けるべきである。築地塀という練塀(ねりべい)は、骨組がなく、厚さを50~60cmに出来るが、その上に板を並べ、土を盛る浮土塀(うきつちべい)というものがある。

③ 控柱がない件について

全国の発掘事例からすると、控柱はあっても無

	<p>くともどちらでも良い。あるとすれば、本柱1～2本おきとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・久野城は控柱がない。 ・愛媛県の河後森城跡(かごもりじょう)は控柱がある。 <p>④控柱がないと倒れるのではないか。</p> <p>本来、掘立柱は根入れ約30cmであり、約1.5m～1.8mが露出していることになる。その場合、倒れない。</p> <p>⑤土塁と土塀の役割について</p> <p>二の曲輪北馬出の門の周辺は、平地で土塀だけでは高さが足りないため土塁が欲しいが、深い堀があり土手がある場所は、土塁は無くともよい。</p> <p>⑥諏訪原城跡の土塁と土塀の役割について</p> <p>⑤を踏まえると、薬医門と土橋の辺りには土塀・土塁が必要となる。しかし、二の曲輪北馬出は、敵が門を破り侵入してきた場合にも、続く細い通路に誘い込み橋を落として行き止りにすることで、袋小路にする仕掛がある。薬医門の内側が敵に見えてしまっても仕掛も意味を成さないため、遮蔽の役割も備えた土塁と土塀があったと言える。</p> <p>《現地視察》</p> <p>以上の内容を踏まえて諏訪原城跡現地に行くことになった。土塁の模型を二の曲輪北馬出通路に置き、文化庁調査官に指摘された土塁幅について検証した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土塁幅について 当時、土塁幅155cm、通路幅145cmと推定される。図面を作製する。 ・土塀について 控柱を無くすことにした。 ・ガイダンス展示コーナーの視察を行い、展示の構成について了解を得た。
提出された資料等	<p>《資料1》 文化庁調査官(平成30年9月11日)との打ち合わせ事項について(報告)</p> <p>《資料2》</p>

	二の曲輪北馬出平面図 横断面図 土塀標準断面図 《資料3》 諏訪原城跡ガイダンス施設展示コーナー平面図
会議を所管する課 の名称	島田市教育委員会文化課
その他必要な事項	